

には福島県自然環境保全地域として指定されている所がある。

これら急傾斜地の森林も、尾根に近づくとアカシデが多くなり、ときとしてアカシデの純林を形成することもある。前記の福島県自然環境保全地域である鹿島町榎原や原町市大原の新田川溪谷には、モミ林とともに美しいアカシデの林もみられる。

吾妻山や尾瀬の燧ヶ岳ではV字谷は亜高山帯にも及ぶ。山地帯の上部から亜高山帯の下部にかけては、V字谷側壁の急傾斜地にはクロベやウダイカンバが多くなる。6月、深山の幽谷に豊かな雪どけ水の水音がこだまし、黒々と屹立するクロベの樹冠下にアズマジャクナゲの紅花が映えるのもこのあたりの景観である。



図 20 榎原のモミ林（相馬郡鹿島町）

5) ケヤキ林その他の崖錐の森林

急傾斜地の下には、上部斜面で風化し剝離された岩屑が堆積する。これを崖錐という。そこでは、土壌の発達が悪く、大孔隙に富み、通気性、透水性ともに良好であり、また地下水の浸出が多いため富栄養である。このような立地に最もふつうにみられる自然林はケヤキ林である。ケヤキは崖錐上部の急傾斜地まで被い、前述のようにモミ林もイヌブナ林もみられない奥羽山地以西の地では急傾斜地の森林をも形成する。しかしケヤキ林の成立範囲はせいぜい標高 500 m までの温暖帯であり、それより高所の崖錐では、ケヤキに代ってトチノキやサワグルミが優勢になる。また、崖錐は場所によって土壌の様子が微妙に異なる。土壌母林に細粒の泥土が多く混じるような所になると、イタヤカエデが多くなり、ときに美しいイタヤカエデの純林が形成されることもある。

ケヤキは古くから用材として尊重されて来たためか、あちこちに優良な林分が残っている。規模の比較的大きいものとしては、岩代熱海の温泉旅館街の南にせまる山腹を被うものがある。また、会津東山の温泉街も深い湯川溪谷の底にあるが、両側の急傾斜地を被っているのもケヤキ林